

## 高校教育課長への申し入れ

日 時： 2010年9月10日(金) 午前11時～12時  
場 所： 都庁第二庁舎28階 相談コーナー  
出席者： 藤本高校教育課長、湯地改革推進担当課長、森代表、多賀  
内 容： 概ね以下のようなことをやりとりしました。

- 守る会／ 8月の要請書で趣旨を説明。
- 都教委／ 9日教育委員会で来年度入試に関する「公私合意」が承認された。来年度公立中学校卒業予定者数を従来の公私比率で配分した上で、公立側に160人上乗せした。
- 守る会／ 96%の計画進学率に対して実績が90%を割る実態にそもそもの問題がある。この点をどう考えているのか。
- 都教委／ 長年の難しい問題がある。160人上乗せは努力の結果だ。
- 守る会／ 今年の定時制の緊急措置については問題が多い。来年こういうことを繰り返さない保障はあるのか。
- 都教委／ 緊急措置についてはハレーションもあった。良い方法だとは思っていない。来年度は中卒者数が一時的に減り、全日制を160人増やしたので今年のようなことは防げると考えている。
- 守る会／ 定時制の募集はどう考えているのか。
- 都教委／ 定時制の募集については変更することは考えていない。緊急措置の学校も元に戻す。
- 守る会／ また計算が違って今年のようなことが起こったらどうするのか。
- 都教委／ 起こらないと思うが、万が一今年のような状況になったときのことは考えていきたいが、現時点では努力するとしか言えない。
- 守る会／ 私たちの考え方を申し上げておきたい。定時制の募集枠を拡大すべきと考えているが、ただし全日制のような学級増ではダメだということを言いたい。夜間定時制高校がなくなってしまったので遠くまで通わなくてはいけない。これでは入れても続かない生徒が生まれ、定時制に行きたい生徒を救済することにはならない。また規模が大きくなると定時制の教育活動がますます大変になる。今の生徒数学級数で学校は手一杯の状況だ。
- また、一部に各学校で30人定員+ $\alpha$ を受け入れればよいという意見も聞かれるが、せっかく全国に先駆けて30人学級にしてきた定数基準を崩すことになるのでよくない。東京では定時制の教職員定数は学級数の1.5倍、これは30人学級を前提にした数字だ。教職員定数はそのまま、都教委が30人学級を壊すような施策を行うことは認められない。
- 最大の矛盾点は八王子。ここの生徒が立川高校や小金井工業高校等に応募してきて、生徒があふれている。少なくとも八王子で2学級校の夜間定時制1校を再開すべきだと思う。課長の判断でできることではないと思うが強く申し上げておきたい。
- 守る会／ 今のままでは今年を繰り返さない保障はないと思う。今後とも話し合いを持っていただきたい。
- 都教委／ 話し合いは続けていきたい。